

うえむら かずこ

# 上村和子

国立市議会議員／現職7期  
無所属 一人会派「こぶしの木」

## 活動レポート No. 95



### 7期目のスタートにあたって

**これからもソーシャルインクルージョンのまちづくりを当事者参画と人権行政で進めます！**

上村和子

私は「生きる権利を市民の手で！」を実現する人権の議席を今こそ守らなければ、との思いで4月の選挙に立候補し、1221票をいただき、21議席中第9位で当選、7期目を迎えることができました。

「本来、選挙はまちの未来をどう作っていくか、市民が語り・考える場がなくてはいけない。主体は候補者にあるのではなく、市民にある」という思いから、選挙期間中は女性、しょうがい、貧困、多様性などをテーマに、いくつも青空討論会を企画しました。また私の公約も、市民が集まり、政策を出し合い、議論して

つくりました。

私は選挙そのものを民主主義の広場にしたい、厳しい時代だからこそ市民が選挙を通してまちの政治を語り合う場が大切だと思いました。実際に、選挙中、多くの市民から切実な訴えがありました。その多くが高齢の女性でした。私も自身には車椅子に乗っての演説で、当事者のひとりであることを自覚しました。居住福祉、ジェンダー平等、子どもの生きる権利、フルインクルーシブ教育、しょうがいしゃや高齢者や外国籍住民があたりまえに暮らす権利、地球温暖化など、これから取り組むべき人権課題は山積みです。危機の時代への突入を前に、偽物と本物の危機を見分ける力をつけたいと思います。

そのために自分の人権感覚をきたえながら、7期目も全ての施策をソーシャルインクルーシブの視点で、

が刻まれています。戦争は外交政策の失敗、政治の失敗です。仮定の敵に対する攻撃準備ではなく、対話を重視した積極的外交を首相自らが率先してやるべきです。

戦争はしない、させない、憲法9条を守り、地方自治の本旨に基づき全ての住民のあたりまえの日常と人権と平和を守る施策をつくりたい。困った時には、市役所に駆け込めば道は拓ける、そういう市役所をつくりたい。

長引く戦争の影響と円安による物価高騰は日常生活を圧迫しています。コロナもまだ収まりません。

社会構造の中で弱い立場に立たされている人の側に立った議員活動をしつかり続けていくことを、皆さまにお約束します。



参議院議員木村えいこさんを迎えて、駅前街頭宣伝

生活困窮の問題／貧困やDV、複合する困難を抱えた女性支援／全てのこどもたちを取り残さず、こどもの最善の利益を最優先する仕組み／超高齢社会の到来に、最期まで尊厳が守られ安心して暮らせる環境整備など、当事者を中心にしつかり取り組めます。

◆急激なデジタル化、間違い続出のマイナー保険証の強行、有害汚染物質PFASによる水の汚染問題など新しい問題が起きています。科学技術の躍進によるリスクをしつかり調査検証し、対策をたてることに取り組みます。

◆地球温暖化による気候変動がいのちを脅かすほどに進んでいることを痛感するこの夏です。待ったなしの環境危機を乗り越えるために、大きな樹木の積極的保全／緑地確保／人が安全に生きられなくなる気温上昇1.5度を止めるための温室効果ガス2013年度比で62%削減を国立市の目標とする、等に取り組みます。

◆ロシアのウクライナ侵攻の形で始まった戦争は長期化し、世界を巻き込み深刻化しています。

国立市の平和都市宣言には「この世に正しい戦争はない」という真理

一般質問

## フルインクルーシブ教育 スーパードバイザーを 小国喜弘教授に委嘱

橋本祐幸教育部長答弁

スーパードバイザーは東京大学大学院の小国喜弘教授にお願いしている。方向性、ロードマップづくりに力添えをいただきたい。教職員、保護者、地域の方々との意見交流を進めていきたい。

上村和子

多様な子どもたちが多様性を尊重されながら、必要な支援を受けながら通常学級にいられる、そのような教育条件をつくってほしい。

教育部長答弁

子ども同士の関係性をどうつくっていくか、お互いが支援し合えるというところを目指していくことが必要と思う。取り組みの報告も受けている。失敗を恐れずさまざまな取り組みを推進し、共有しながら前に進めたい。

上村和子

私も記録の動画を見た。子ども同士の中で、自分と違う子ども、仲間と一緒に入れながら、共に考えて共に楽しむ、共に生かしながら、共にある実践が国立市で始まっている。むしろ、しょうがいの子が人はいろいろであるということを知って関わっていくという場づくり。ぜひつなげてほしい。

## 補正予算案に反対 不登校の別室登校― 学校の多機能化に疑問

6月議会総務文教委員会で補正予算案の中に、東京都の決定に基づく不登校の子どもたちの校内別室登校支援員報酬634万1千円が入っており、反対しました。

ニーズに応じた選択ということ、「学校の多機能化」が進んでいます。「選択」が「選別」につながらないか気になります。すでに学校の中に、①通常学級、②特別支援学級、③発達しようがいの特別支援学級、④補強したい教科を学ぶために通常学級から定期的に通う特別支援教室があり、そこに⑤不登校の校内別室が加わります。

「通常学級」に入れない子どもたちが増えてきている現状は、逆に、「通常学級」そのものが変わらなければならぬということを示しているのではないのでしょうか。「通常学級」を包摂型にして、個別支援もおこなうというフルインクルーシブ教育へ本気で取り組む時です。



## 寄稿コラム フルインクルーシブ 教育って？

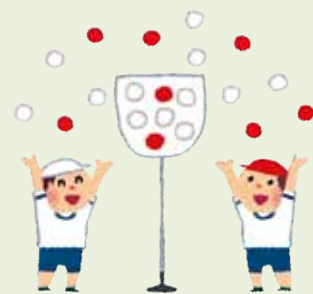
国立市みんなの学校づくり  
市民プロジェクト 澤田宏子

いい日本語があてはまらない。共に生きる教育、と言えればいいだろうか。障害があると言われる我が家の長女は4月から国立第一中学校の普通級の1年生になった。

毎日の登下校でも小学校時と同様見守りは変わらず必要で。日常生活介助も必要。支援だらけの中学校生活。当事者である本人の意思がわかりにくいいため、教員、保護者、支援者がそれぞれ意見を出しながら手探りの試行錯誤が続いている。

休み時間や授業内で、クラスの友達からの声かけに応答したりしなかったり、担任の先生は、「なるべく大人からは余計なことを言わないように」と思っていて、関わり方は生徒たちに任せています」と。長女は、自らコミュニケーションをとることが少ないから周りのからのアプローチに対しての反応もまちまちだし、みんなに飽きられずにクラスの一人としてくれるのだろうか？

生徒さんから積極的に関わってくれる話を聞くと安堵するもの、思いを伝えきれない長女は愛想をつかされないか心配にもなる。



そうこうして迎えた6月の体育大会。中学校はほぼ記録会で、運動力のぶつかり合い。そんな大会に参加できるのだろうか心配していた。先生方と生徒さんたちで考えた、誰もが参加できる競技「玉入れ」。全学年各クラスから選抜メンバーで構成されたチーム4組で、得点を争った。

長女は、入場も退場もクラスの友達と、競技開始の音楽がスタートしてからの玉入れも、上手に投げることがはなかつたが、ピョンピョン跳び跳ねてとても楽しそう。最後まで笑顔だった。私も嬉しかった。玉入れの得点は71個で、なんと1位だった。

得意な子も得意でない子も、どうやったら参加できるか？を考えてみる、をひとつひとつやっていくことが、共に生きるための試行錯誤。正解なんてないんだから、みんなが考えを出し合い、合わせしていくのが大事なあとと思う。

寄稿コラム

## 学校への奉仕を強制する コミュニティ・スクール

東区在住 佐々木茂樹

市教委が来年から各学校に導入しようとしているコミュニティ・スクールは、「住民が学校運営に参画し、住民の意向を反映できる学校運営をめざす」ものとされていますが、それは建前だけのことであり、多くの問題を抱えています。

□学校運営協議会の委員が組織代表であり、住民の多様な意見は無視される。  
□委員の選出には校長が関わり、学校運営に協力的な人しか選ばれない。

□学校の運営方針の「承認」は形式的で、運営方針が変更されることはほとんどない。  
□協議会で決まったことは

「地域の合意」とされ、具体的活動の実施は住民に押しつけることになる。

□市が任命するコーディネーターは、学校が求める活動に住民を動員するための「地域ボス」になり、文科省の教育イデオロギーを住民に浸透させる役割ももっている。

□市がやっている子ども支援事業も各学校の協議会任せになり、協議会で不要と判断されれば廃止され、やる学校とやらない学校という差別が生じる。  
文科省は、学校がやることに協力するのは「住民の責任」と考え、住民に学校と同一歩調をとることを求めています。今までは、子ども支援活動は住民が自主的に行っていました。コミュニティ・スクールでは学校への奉仕が住民の義務となつてきます。  
住民を統制しようとするのは、多様性が尊重されるべき時代に逆行するものでありません。



環境センター視察。職員さんと。

一般質問

## 女性支援新法の計画は 当事者を中心に置いて

松葉篤人権・平和担当部長答弁

市内の民間女性支援団体と意見交換を行い、盛り込むべき観点として、女性支援を通じた地域づくりの実現を目指す、行政と民間の協働事業である女性パソナルサポート事業の言語化、などが挙げられた。困難な課題を抱える女性を中心に置いて、官民が柔軟に連携していくことが重要であると確認した。

上村和子

ぜひ当事者を中心として、実効的なパソナルサポートの仕組みを続けてほしい。

## 人権の視点での「清掃 の仕事」と環境教育に ついて質問

黒澤重徳生活環境部長答弁

清掃事業を委託している2社と意見交換を行っており、差別等が確認できたら、迅速に解消に向けて努めていく。

環境教育については、環境センターの施設見学や、子どもたちの環境作品展を実施している。

上村和子

人権の視点から清掃の仕事と環境問題を、市民と連携しながら進めてほしい。

一般質問

## 「国立介護」をまちの ブランドに高める

介助者不足は深刻です。ソーシャルインクルージョンを基盤にした介護支援については、国立市には歴史的にも実態としても既にあり、この問題を解決するにあたり、国立市で行われてきた介護を、まちのブランドに高めることについて質問しました。

大川潤一健康福祉部長

国立市では資格を持っていないでも介護ができる地域参加型介護サポート事業（地サポ）の制度がある。この地サポに関する情報を集約してコーディネート機能を持たせてプラットフォーム化できれば、さらに地域ベースでの支え合いの展開も期待できる。

その過程で市から積極的に情報発信することで、見学や介護体験も増え、人材の交流が生まれ新たな人材がはいつてくる。このような好循環を目指す取り組みの大きな方向それぞれが国立介護のブランド化を目指すものと言える。  
コーディネーター機能をどこに置いて誰が担うか、情報発信、学校との連携どうするかなど、当事者とも話し合いを重ねながら、財政部門とも調整して、積極的に進めていきたい。

## 自然の恩恵は子どもたちの権利 —多くの思いがつながった 二小樹木救出の奇跡

二小近隣住民 S

2年前の春、二小建て替えの説  
明会に参加し、木々が多数伐られる  
ことを知った。新しく若木を植える  
にしても、長い年月をかけて作られ  
た生態系が伐採で失われることにな  
る。

幸い、この懸念を共有してくれる  
仲間と、市に話をつなげてくれる議  
員がいた。おかげで、担当部署との  
話し合いを持つことができたが、結  
局、伐採はやむなしというところに  
話は行きつき、この春を迎えた。

だが突然のように奇跡が起こる。  
映画「杜人（もりびと）」の矢野智  
徳氏（環境再生医）が視察に来て移  
植の道が開けたのだった。

突然のように見えたが、実はこの数  
年間で、ここに至る「水脈」は着々  
とできていたのだと思う。

座視できないほどの気候変動と、  
持続可能な社会志向。再開発による  
樹木伐採計画と、それに反対する声。  
映画「杜人」の公開と、監督が国立  
市民だったこと。そして二小の子ど  
もと保護者の、木を残したいという  
思い。それらがびたり、びたりと重  
なって今回の奇跡につながったのだ。

そこに、市、市教委、市民団体、  
建設会社、造園家集団、彼らすべ  
てによって、ぎりぎりのタイミング  
で、樹木の引っ越しの決断がなされ  
た。

この決断を称えたいと思う。移植  
が成功すれば、都市における自然環  
境保全への革新的な一歩になる。た  
とえ叶わなくても未来の学問に大き  
く貢献するに違いない。子どもたち  
への価値ある贈り物だ。

国立市は現在「子ども基本条例」  
を策定中だが、私は「自然環境の保  
護」を条文に入れてほしいと思っ  
ている。自然の恩恵はどの子にも平等  
に与えられるべき権利だと。

樹木の力がどれほど大きいのか、連  
日の酷暑に耐えながら思う。二小の  
東側フェンス沿い、既存の木々の間  
に、仮置き約40本の樹木が並ぶ  
その辺りだけは気温が低く、涼しい  
風が吹き抜けるのだ。

今、地球は待ったなしの危機的状  
況。子どもたちが健やかに生きられ  
るよう、今すぐ何とかせねば！とい  
う局面。だが、この間の経緯を振り  
返れば、なぜか見えるのは希望の光  
だ。

多くの人が、良い世の中を作りたい  
と願い、「水脈」はすでに、たっ  
ぷりと水を湛えている。流れはたぶ  
ん、もう止まらない。奇跡はきっと、  
また、起きるだろう。



3月、二小の桜。5月、多くの人の思いが繋がって、伐採予定のうち40本を救出。

### 「加害者としての戦争を語る会」

日時：9月17日(日) 昼2時～  
場所：くにたち公民館・講座室  
内容：ノンフィクション作家の高瀬毅  
さんに被爆地・長崎で今、何が  
起きているかお話しいただきます。  
費用：無料  
申込：090-1469-1094 (龍野)

2023年8月25日発行

〒186-0003 国立市富士見台 3-32-4 日商岩井マンション 1110  
☎ 090-1814-8371 fax 042-574-2646  
kazuko-kobushinoki@ezweb.ne.jp

### うえむらかぞこ 活動日誌から (23.5～8月)

★は議会関係の活動	
5月8日	★新体制を協議する議員顔合わせの会参加
15日	★議長立候補意見表明会に参加
18日	ゼロエミッション国立の会からの市長に対する提案の場をコーディネート
23日	★6月議会一般質問通告
26日	★6月議会の議案説明を受ける
29日	★6月議会初日の文化スポーツ財団と土地開発公社の経営状況の報告を受ける
6月2日	フルインクルーシブをテーマにした劇とシンポジウム参加
6日	★6月議会初日・本会議
8日	9,12,13 ★一般質問(上村は13日)
14日	★休会白日/議員有志で農業委員候補の畑を見て、話を聞く。
15日	★総務文教委員会出席
16日	★建設環境委員会
19日	★福祉保険委員会
25日	フルインクルーシブ教育について、保護者からの相談を受ける
26日	★最終本会議
7月1日	二小樹木保存活動紹介イベント参加(旧駅舎)
3日	東京都子ども基本条例自主勉強会参加
4日	コミュニティスクールについての市民相談を受ける
12日	脱炭素社会に向けての市民相談を受ける
15日	土曜夜会の8周年駅頭情宣に参加
21日	参議院議員木村えいこさんと、国政についての意見交換
24日	子どもの虐待に関する市民相談を受ける
25日	ジェンダーとフェミニズムをテーマの懇談会に参加
29日	PFAS汚染学習会に参加/「メンタルヘルスとりカバリー」講座に参加
8月2日	不燃ごみやビン、缶などの選別作業を行う環境センター視察
9日	「介護を産業に」をテーマにした当事者団体と市役所担当課との話し合いに同席
14日	★一般質問通告開始/9月議会議案説明を受ける
15日	高齢の一人暮らしの市民の支援会議に参加